

【小施策評価(平成29年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	1	人がいきいきと暮らすまちづくり	小施策 主管課等	地域福祉課	
施策	1	地域福祉の推進	評価 責任者	藤澤 多津子	内線 2520
小施策	1-3	地域福祉を担うひとづくり	評価 シート 作成者	熊谷 修二	内線 2521

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
地域福祉の実践活動では、生活困難を抱えた人々を排除することなく、社会全体で包み込むという視点と、広く福祉に関する意識を持った人材の育成を推進する必要がある。		支援を必要とする人が適切なサービスを受けられるために、また、住み慣れた地域で、誰もが地域の一員として尊重され、自立した生活を送ることができるよう、お互いに支えあうことができる地域福祉を担うひとづくりを推進する。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(対象をどのようにしたいのか)
市民, 地域		仕組みと地域環境をつくり、支える人材が養成される。

小施策の成果指標の達成状況・評価(平成29年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標	単 位	目指す方向	成果点	⇒	成果の要因分析
指標① ボランティア登録者数(個人)	人	↗	<p>当初値 (H25) 11,607 H31目標値 12,000 H36目標値 12,500</p>	⇒	<p>・多くの市民等が共生市民社会に関するフォーラムに参加した。</p> <p>・将来の地域福祉活動の担い手である高校生及び大学生が人材養成講座に参加した。</p>
			問題点	⇒	問題の要因分析
			<p>・第二期地域福祉計画策定時のアンケートでは、「活動内容によっては地域活動に参加していい」、「声がけなどの日常生活の支え合いに活動に協力することができる」と回答した人が一定程度あったが、実際の活動につながないケースが多くあると考えられる。</p>	⇒	<p>・地域福祉の中核的な担い手の層や、興味関心が薄い層に対し、フォーラムや講座の内容に変化をつけたことによるものと考えられる。</p> <p>・近年の地域活動における学生の意識の高まりを反映した人材養成講座内容の工夫の成果によるものと考えられる。</p>
指標② ボランティア登録者数(団体)	団体	↗	<p>当初値 (H25) 131 H31目標値 135 H36目標値 140</p>	⇒	<p>・地域における福祉活動を牽引する中核的な担い手として期待される多くの福祉団体の専門職員が人材養成講座に参加した。</p>
			問題点	⇒	問題の要因分析
			<p>・福祉活動やボランティアに関心を示す団体が、実際に取り組みを行う場合、その方法が分からず地域での活動が停滞することが懸念される。</p>	⇒	<p>・地域福祉活動に取り組みたいと考える多様な主体に対し、福祉を取り巻く状況や現在の取組を紹介するためフォーラムや講座の内容に、変化をつけたことによるものと考えられる。</p> <p>・近所付き合いなど、地域住民同士の日常的なつながりの希薄化が進んだことにより、地域活動に参加したい人や、日常生活の支援への協力ができる人が、そのきっかけを得ることが困難になっていると考えられる。</p> <p>・社会貢献としての地域福祉活動を行う方法について、多様な主体と、町内会や地区福祉推進会などが、小地域レベルでニーズのマッチングを行うことができる仕組みを構築する必要がある。</p>

今後の方向性(平成30年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…30年度着手済または着手予定 ☆…31年度以降の着手を検討
<p>★ 地域課題に関わる実践的なプログラムを実施して、高校生や大学生の若者の愛郷心を育む場を創りながら、地域福祉活動の活性化と担い手の育成を図る人材養成講座を開催した。</p> <p>☆1 地域住民等の地域福祉活動への参加や興味関心を高めるため、継続的に人材育成に取り組む必要がある。</p>	
<p>★ 地域課題に関わる実践的なプログラムを実施して、高校生や大学生の若者の愛郷心を育む場を創りながら、地域福祉活動の活性化と担い手の育成を図る人材養成講座を開催した。</p> <p>☆1 企業の地域福祉活動の参加を促進することで、担い手の範囲を拡大していく必要がある。</p>	